



図1：リトアニア写真についてのコメント（一部）

2022年度春学期の「道德教育の理論と実践」（教職科目）において、対面授業内でチャット機能を2回使用した。いずれも授業の一部、15分程度での使用である。

方法

slidoの「Q&A機能」をチャットとして使用。アドレスを事前にMaNaBoで提示しておき、授業中にアクセスしてもらった。

場面1（図1）

杉原千畝について解説する文脈で、私がリトアニアに行った時の写真を提示した場面である。図1は、首都の駅前の写真と、醤油や日本食が多くみられるスーパー内の写真を提示した時のコメントである。

指示

「私が話している間に、全員少なくとも3回はチャットで何らかのコメント（独り言、突っ込み）をながしてください。「なるほど」「知らなかった」「まじか」「面白い」など。」

解説と考察

単に旅行写真を見てもらうだけではあまり面白くないと考え、自由に感想を入力・共有できるようにした。話す側としてもリアクションが返ってくるのでやりやすい。学生の感想からも好評だったことがうかがえた。しかし匿名のため、一部のクラスでは関係ないコメントも飛び交い、不快に感じた学生もいたようである。事前に「周りが不快になるようなコメントはしないように」と指示しておく必要があった。

場面2 (図2)

全授業の最後に、質問コーナーを設けた。

指示

「試験、授業方法、原口の考え方など、自由に質問してください（あまりにも授業に関係のない質問はスルーします）。

※発言の時に名前を記入してください。」

解説と考察

挙手だと質問しづらいと考え、チャットでも質問できるようにした。真面目に質問させるため、記名式にした。ただし、記名しない学生も多かったため、再三指示を繰り返す必要があった。私の授業づくりに関するものなど、挙手させるよりも幅広い質問が出たように思えた。

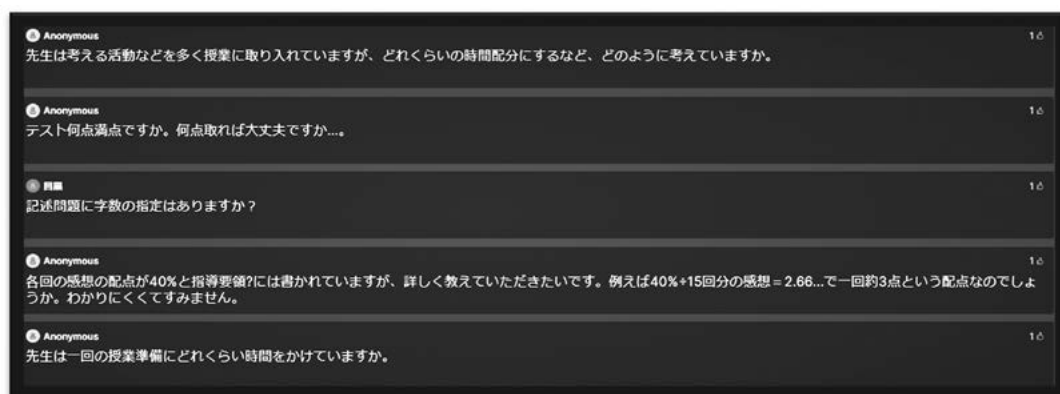


図2：「質問コーナー」での質問（一部） ※氏名表示は伏せた